

本の扉

2月号
2022年2月4日

前橋東高校図書委員会
1年4組

未だ世界中でコロナウイルスの収束の兆しが見えず、群馬県の感染者数も増加傾向にあり、外出自粛ムードが続いている。そんな今こそこの状況をプラスに捉え、お気に入りの一冊を探してみてはいかがでしょうか？今回は、図書委員のおすすめの一冊と佐々木先生のおすすめの本を紹介します！ぜひ読んでみてください！



1 『億男』 著者：川村元氣

あなたはもし宝くじで3億円が当たったらどうしますか？家族と別居中のしないフリーターの主人公、一男がある日、宝くじで3億円を当てます。そのことを、社長をやっている友人、九十九に相談しますが、目が覚めると九十九と共に3億円が消えてしまいます。これをきっかけに、九十九の友人に手がかりを聞きに行くお話です。九十九の目的は何だったのか、3億円を取り戻すことはできたのか、ぜひ読んで確かめてみてください。



2 『白夜行』 著者：東野圭吾

質屋で起きたある迷宮入りした事件。その被害者の息子の桐原亮司と、その事件の容疑者の娘の西本雪穂はその後、、、そして、その二人の周りで見え隠れするいくつもの難解な事件。日の浴びる人生を送れなくなった二人はどう生きていくのか、また、元凶となった質屋での事件の真相とは。

この本は850ページほどの文量で、手に取るのは少し難しいかもしれません、ですが、一度読み始めてしまえばページを繰る手が止まらなくなる、壮大なスケールで書かれたミステリー史に残る東野圭吾屈指の傑作です。

ぜひ読んでみてください。



佐々木先生のおすすめ本紹介

1 「考える技術」と「地頭力」がいっつきに身につく東大思考』 著 西岡壱誠

東大生がどのような物事のとらえ方をしているのか、その考え方について学ぶことができる本です。ある1つの事象に対して何も学ばないのか、1つ学ぶのか、5つ学ぶのか。毎日の授業だけでなく、部活動での考え方や取り組み方など、自分自身を成長させるヒントにもなるのではないでしょうか。



2 『東大メンタル

「ドラゴン桜」に学ぶ やりたくないことでも
結果を出す技術』 著 西岡壱誠、中山芳一

また東大か。と思う人もいるでしょうが、こちらは特に精神的な部分で学ぶことができる本です。やりたくないことに対してどのように向き合っていくのか、漫画「ドラゴン桜」のシーンも交えながら主体性、メタ認知、モチベーション、戦略性について紹介されています。



図書部より おすすめ本紹介

1 『つながり続けるこども食堂』 著：湯浅誠 ※図書館にあり

全国に広がり続ける「こども食堂」についての解説本です。皆さんは群馬県に「こども食堂」が幾つあると思いますか？ こども食堂ネットワークぐんま事務局（群馬県社会福祉協議会生活支援課）によると現在36か所で運営されています。前橋は最も多く8か所です。格差社会が進み、貧困家庭が増える中、この厳しい現状を何とかしたいという人たちがネットワークを作り、コロナ禍の中でも奮闘しています。「困っている人たちに食事を配る活動」と思っている人・・この本を読めば、それとは違う現実が見えてきますよ。前東生の進路プランニングへの取り組みを見ると善意の人たちばかりです。この本は多くの示唆を与えてくれるでしょう。

2 『感染症の世界史』 著：石 弘之 ※図書館にあり

2年生から受験について聞かれることが増えました。受験勉強はとっても簡単です！過去問を解くことです（3年生は実践中）。2階の進路室に赤本（大学入試過去問集）があります。それを読んだりコピーして解いてみたりして自分の力を測定してみましょう。

そしてもう一つの学習方法は「読書」です。今回紹介した本を読めば、感染症がどのように世界の歴史を変えてきたかがよく分かります。有名な例は「人類最悪のパンデミック」と称されるスペイン風邪です。これは第一次世界大戦下の1918年に広がり、4500万人もの死者を出したとされています。（第一次大戦の戦死者は推計で大幅に違いがありますが、一つの推計値は1600万人でこの内の約3分の1がスペイン風邪とされています。）19世紀の戦争ならば病死者の方が戦闘死者よりもずっと多かったと推計されています。

この本には「おこり」の解説も出ています。古典に出てくる「おこり」という感染症です。専門家はこれをマラリアではないかと推理しています。『源氏物語』の光源氏も平清盛もこれに罹患してしまいました。こんなエピソードが満載の本です。教養と受験学力の増進を兼ねての一読をお勧めします。

